先日行われました「春季東北地区高等学校野球福島県大会」に出場した湯本高校野球部は、１回戦会津地区代表の若松商業高校に０－６で敗退しました。課題は山積みですが、一つずつクリアにして夏の大会に臨んで欲しいと思います。

若松商 零封勝ち

湯本 好機生かせず

◇ヨーク開成山▽1回戦

湯本	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
若松商	0	1	1	0	1	0	3	0	×	6

（湯本）古川、鈴木大―志賀
（若商）荒井―小林
▽三塁打＝山崎力（湯）鈴木壮、星（若）▽二塁打＝山崎力（湯）▽盗塁＝湯2、若2▽犠打＝湯3、若0▽与四死球＝湯1、若2▽暴投＝荒井（若）
（球）草野（湯）佐藤、石井、先崎
▽試合時間＝1時間57分

【評】若商が湯本に零封勝ちした。若商は二回に2死二塁から星が適時打を放ち先制。三回に阜川の左犠飛、五回に敵失で1点ずつ追加した。七回には3点を加えた。湯本は得点圏へ走者を進めたが、あと一本が出なかった。

▼湯本・江尻翼（主将としてチームを引っ張る）守備練習を重点的にやってきたが緊張から動きが硬くなってしまった。練習の成果を出し切れるチームを目指す。

変化球巧みに完封 若松商・荒井

最後の打者を遊ゴロに打ち取り、若松商の先発荒井駿成は静かに勝利の喜びをかみしめた。

切れのある直球にスライダー、チェンジアップを織り交ぜて的を絞らせず、6安打で完封。課題と捉えていた終盤のマウンドでも勝負強い投球を見せつけた。3点リードの七回、1死三塁のピンチを切り抜けると、八回は先頭に三塁打を許した後の打者を3人で仕留め得点を許さなかった。

今年1月に左足の小指を骨折した。走り込みができないもどかしい日々が続いた。それでも、昨春から背番号1を背負うチームの大黒柱としての自覚を持ち、手首を強化するなどの練習に地道に取り組んだ。

田中巨人監督は「マウンドで気持ちのコントロールがつくようになった」と成長に目を細める。進化を続ける左腕がさらなる活躍を見せる。

【湯本―若松商】湯本打線を完封した若松商の荒井＝ヨーク開成山

日大東北7回一…
白河旭にコール…

◇ヨーク開成山▽1回戦

白河旭	0	0	0	0	0	0	0
日大東北	0	1	0	0	1	5×	7